マグダラのマリアの霊性3
シャルル•ド•サン=ポールと
マグダラのマリアの愛

小泉友美 KOIZUMI
Tomomi

目次

マグダラのマリアの霊性 3 1

目次

マグダラのマリアの霊性 3

マグダラのマリアの霊性 3 シャルル• ド• サン=ポールとマグダラのマリアの愛

17 世紀ユマニズム• デボ運動の中の純粋な愛を体現した愛の使徒マグダラのマリア

シャルル• ド• サン=ポール Charles de Saint - Paul (1592-1644 年) は、17 世紀のフランス国王ルイ 13 世統治期に活躍した、カトリックの聖職者であり、歴史学者です。1628 年から 1634 年において、フイヨン修道会 Ordre des Feuillants の総長を務めました。フイヨン修道会は、聖ベネディクトゥス Benedictus de Nursia (480- 547 年) の戒律に基づく 16 世紀末に創立された厳格な修道会で、1562 年にジャン• ド• ラ• バリエール Jean de la Barrière (1544-1600 年) によって、本来の修道生活を目指し、修道会の規則を厳しくしました。(裸足、坂の上に寝る事、膝をついて食事をする事等)
1791 年のフランス革命中に修道会は解散しました。
シャルル• ド• サン=ポールは、1628 年に、キリストを愛するマグダラのマリアの絵という著作を刊行しました。Le tableau de la Magdeleine en l'état de parfait amante de Jésus
シャルル• ド• サン=ポールの生きた時代は、ユマニズム• デボ (L'humanisme dévot 敬虔なヒューマニズム運動 1580 年から 1660 年) というフランス• カトリック寛容的スピリチュアリズムの時代であり、キリスト教信仰と人間への信頼を調和させて、人間の内面的な精神生活を高める事で、神との信仰につながる愛と優しさをテーマにして、すべての人々の魂の休済を求めました。
この愛を求めるスピリチュアリティーは、純粋な愛 Le Pur Amour と言う用語で表現されて、このユマニズム• デボにおいての神秘主義体験は、
神との結合、愛そのものとされます。この神愛を求める為に、敬虔さ、美徳、観想という実践がされました。17 世紀におけるこの純粋な愛の概念は、信仰において、一切の個人的な見返りを求めず、ただ神そのものを愛する理想の信仰で、自己の放棄を目標としていました。
シャルル• ド• サン=ポールのマグダラのマリア像は、悔悛がテーマとなっており、マグダラのマリアの世俗的な愛と天上的な愛、美徳と悪徳をはっきりと区別する事に重点が置かれており、ひたすらに優しさを求めた聖フランソワ• ド• サールとくらべますと、シャルル• ド• サン=ポールの苦行を愛する精神が見られます。しかし、純粋な愛の理論の時代に生きた作家らしく、マグダラのマリアの愛を大切に表現しています。
マグダラのマリアは、悔悛者であるけれど、すべては愛により為され、生きている。地上 (俗世) の愛から、キリストによって天上の愛へ結ばれ、その段階を、神愛との結合、恍惚、合致そして休息へと進んでゆきました。

マグダラのマリアの回心は、試練を受け、自分の過去を清算させた神愛の中に、キリストと共にあり、愛の観想を送った、賛美される女性として表現されています。そして、すべての美しいものが強調され、キリストもまた、驚異的な美しさを持っている人間性 (人としての側面) が讃えられています。

シャルル• ド• サン=ポールの文章は、とても視覚的で、読者の視線をとらえ、まるで絵画を鑑賞させる様です。神秘主義の用語の一つとして、ランガージュ• イマジェ (langage imagé 絵画的な言葉) があり、一つの単語から連想される映像を言葉として表現してゆきます。この作品は、愛に満ちたマグダラのマリアの境地に至るまでの修行法が、色とりどりで一つの絵画として表現されています。

この著作、キリストを愛するマグダラのマリアの絵の le tableau は、絵画、活人画、情景、場面とも訳せます。
この著作は、XIV 章で構成されており、高潔な愛 (I, ll, lll, lV 章), 誠実な愛 (III 章) , キリストの愛 (V, VIII, IX 章), マグダラのマリアの愛 (VII, VIII 章), 地上の愛 (VIII 章) , 身体表現による愛　(VIII 章), 俗世の愛 (VIII 章), 聖なる愛 (IX 章) 等、様々な形の愛の表現がされております。
ここでは、I, II, III, IV, V, VII, VIII, IX, X, XI, XII, XIII, XIV 章を紹介したいと思います。

引用及び参照に用いた外国語の参考文献は、私自身の翻訳です。

I 章
愛は、魂を高潔な絆と貞潔さで結びつけます。

II 章 : 高潔な愛

高潔な愛は誠実なもの。
高潔な愛は光そのもの。
人間の意志そのものは、盲目の状態にあるので、愛を導く為に照らす光が必要です。
聖アウグスティヌスの言葉の引用があり、愛とは 4 つの美徳から成り立っと言います。
1 つは節約 (私達の意志を抑えて一致させるもの)
2 つめは力 (私達に勇気を与える)
3 つめは正義 (私達のすべての行為に規律を与える)
4 つめは慎重 (高潔な意図の為に美しい精神を生み出してゆく事)

III 章 : 高潔な愛

高潔な愛はすべての行為の基となり、美徳と名誉のイメージそのものとなります。心に愛の炎を燃え上がらせる対象、それは美しさ。

IV 章：高潔な愛　友愛

高潔な愛とは、心地良いもの。
私達の人生において、もっとも優しく、心地良いものは禁欲的であり、高潔な絆で結びつけられた誠実な愛そのもの。すべての愛の行為は、暴力を避けた規律正しいものでなくてはなりません。この世でもっとも心地良いものは、忠実な友人を持つ事であり、(友愛) 友人達に私達の心の秘密を打ち明ける事であり、会話をする事で、私達の精神的な哀しみが弱まってゆき、精神の苦痛が和らぐ事です。
愛とは優しさそのものである事。
マグダラのマリアは、完全なキリストの愛である事。

V 章：キリストの愛

キリストの愛は完全そのもの。
キリストの愛と慈愛はすべての愛の王笏。

VII 章：マグダラのマリアの愛　キリストの使徒達の愛　慈愛

マグダラのマリアの愛は、キリスト教徒達の愛においてもっとも完全なもの。マグダラのマリアの愛は強く、キリストを香油で拭い、十字架にかけられたキリストを勇気を持って追い、十字架にかけられたキリストが血によって染められ、マグダラのマリアの愛は、キリストと共に十字架にかけられました。
キリストもまた、マグダラのマリアの愛を受けた人。
キリストの恩恵は、マグダラのマリアを回心させて、地上の愛にしがみつく魂を咎めて、完全な慈愛の火を灯します。

VIII 章：地上の愛、官能の愛、慈愛、地上における愛、聖なる愛、身体表現による愛、キリストの愛、聖なる愛、俗世の愛

マグダラのマリアは、キリストへの順従性と忠誠心を持って、その心は炎によって燃え上がっています。
マグダラのマリアは、若い時には地上における官能の愛に身を寄せていましたが、キリストの恩恵によって回心し、この地上の愛への執着を無くして、完全なる慈愛の炎を灯させました。何という地上における愛よ、何故にあなたはマグダラのマリアの心を占領するのですか？
キリストはマグダラのマリアを傷つけさせましたが、死には至らせませでした。しかし、多くの傷を残しました。天はマグダラのマリアを癒して、囚われの鎖を壊して救いを与えました。マグダラのマリアの盲目なる闇から解き、地上における虚栄を気づかせ、官能性や危険に気づかせました。そして、マグダラのマリアは、聖なる愛の活き活きとした炎に抱かれました。

マグダラのマリアの身体表現による愛は、マグダラのマリアの苦行に苛んだ顔、恥じらいの見える額、敬虔さに満ちた会話、涙に満ち溢れた両眼、キリストの愛に満ちた涙。
マグダラのマリアの心は罪によって失われて、美しさによって満ち溢れて、恩恵そのものとなり、闇に打ち勝って、悪徳から解かれて、聖なる愛の激しさによって抱擁されました。キリストによって変えられて、キリストはマリアの心へと入りました。地獄の炎の様な俗世の愛によって燃え上がらせて、今、慈愛の炎によって回心させられます。
悔悛者マグダラのマリアは、官能の泥にまみれても、聖なる愛に燃やされてゆき、完全なる慈愛は、キリストの使徒達によって福音を告げられました。

IX 章：聖なる愛、善意の愛、永遠の愛、神聖なる愛、慈愛

聖霊の恵みの風を失った人々は、聖なる愛の天上の調和を創り出す事が出来ません。キリストの恩恵と言う聖なる風は魂の中へと入ってゆき、調和の取れたコンサートが行なわれます。聖三位一体は、この愛が流れる源であり、聖なる父はキリストに名誉を与えて、栄光を与えます。人間の心の内にある、キリストの善意の愛とキリストの御名を識る事、すべての人々は、おのれの様にキリストを愛します。
(ヨハネによる福音書 6 章 44 節より引用：私を遣わされた父が引き寄せて下さらなければ、誰も私の元に来る事は出来ない。)
天の父は私達の捕らえられた魂を持つ、地上の愛着の鎖を壊します。天の父の胸元にある永遠の愛の本質 (キリスト) は解かれる事の無い絆を持っています。神聖なる愛は、私達の心を善意に変える事。

X 章：地上の愛、天上の愛

マグダラのマリアは地上の愛から、キリストの善意による天上の愛に回心させました。
愛を対象とし、また愛を動かす原因とするものは善と美。

XI 章：キリストの愛

キリストの美しさについて、キリストの愛の貞潔な絆にある心を捕らえたもの、マグダラのマリアは火の内に、その魂を回心させました。
キリストの美しい髪は、肩に波うって、その愛のプリゾンに捕らえらます。優しさはその額に宿り、その言葉に魅了され、病人を癒し、死者を復活させ、悪霊から解放されます。

XII 章：マグダラのマリアの愛

マグダラのマリアの愛、キリストの永遠なる愛の泉、空、天使、自然界の要素、植物はキリストを愛します。

XIII 章：マグダラのマリアに宿るキリストの愛

マグダラのマリアに宿るキリストの愛、このキリストの愛はマグダラのマリアの心を抱擁します。

キリストの愛についての 4 つの問題とは、1 つめは、優しさと聖なる好意を、キリストの美しさにおいて感じる事。2 つめは、キリストに好意を覚えさせる事。3 つめは、キリストへの純粋な愛情。4 つめは、キリストの名誉と栄光。

XIV 章：マグダラのマリアの愛

マグダラのマリアの優しさと言う強さが、キリストへと結びつけてゆきます。優しさの好意によって、喜ばされたマグダラのマリアの心。
マグダラのマリアの善意、その愛、その正義、その力、その賢さは天の摂理に喜ばされます。

完

2026 年 11 月 11 日 フランス• アンジェ Angers 平和　Peace　祈

マグダラのマリアの霊性3 シャルル･ド･サン=ポールとマグダラのマリアの愛

著　者　　小泉友美 Koizumi Tomomi

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社